

第3投目：どんな条件がクロを活性させるのか？



元旦大時化からやっと天気回復してきた 2015 年 1 月某日、ネットではやっと西側海域に釣行できそうな予想天気図が表示されていました。当日の風向きは西ですが波は 1m、クラブメンバー数名と渡船に乗り込み朝 5 時半に古仁屋港を出港。朝日が磯を照らす前のまだ薄暗い時間にメンバーと二人で名礁 M 瀬に乗ることができました。

さて磯に渡れたのはいいものの、この日の海はまだ北からのうねりが大きく残っていました。時折磯に激しく打ち付ける波で上がったしぶきは、小さな離れ瀬のてっぺんより 1m は高いところを通り抜け、我々二人はシャワーを浴びるようにビショビショの状態です（笑）

クロを釣る上で貴重な朝マズメの時間、岩の陰に身を寄せ、頭から降りかかる波しぶきを我慢しながら懸命にクロからの魚信を待ちましたが、そう簡単にヒットしてくれることはありませんでした。

しばらくすると、やっと海の状況を確認できる明るさになりました。潮の向きを意識し、二人とも思い思いにポイント

を変えながら釣りを続けます。そして午前 9 時頃、私と反対側に釣り座を構えていた相方が魚を掛けた瞬間に『よっしゃ！』と叫びやり取りを開始しました。それまで全くクロにつながるヒントが無かった海だったのですが、ウキがアタリをとらえた瞬間にクロと確信し、人間がやり取りに有利な場所へ移動しています。相方はタモ入れまでに幾度も波しぶきをかぶりながらも 49 cm に近い良型のクロを落ち着いてゲットしていました。『今日のチャンスは今だけかもしれない…』私もそのポイントに移動し、相方と仕掛けを交互に入れていきます。その 30 分後、サイズは 45 cm ほどでしたがようやく私もクロを釣ることができました。

一日を通し、海がクロを活性させる雰囲気があったのは結局その 30 分間だけ…その後の M 瀬は回収の時間まで厳しい釣りを私達に経験させてくれました。いくら名礁と言われる A 級磯でも自然条件が合わなければ良い釣果に恵まれることはありません。夜の台所でクロを捌いてみるとやはりお腹に餌はほとんど入っていませんでした。

何かの条件、タイミングでその時間だけ人間の仕掛けが届く範囲に泳いで来たクロという魚、何故その時だけだったのか？たとえ釣ったとしてもいろいろと考えさせられてしまう釣行となりました。

